

神戸・北野界限におけるソーシャルメディアを活用した地域景観分析

奈良県庁 正 会 員 ○仲谷恭平

大阪工業大学工学部 正 会 員 吉川 眞

大阪工業大学工学部 正 会 員 田中一成

1. はじめに

わが国では高度経済成長期より、地域全体の調和や伝統を軽視した住宅やビル、工場などの建造物がつくられ、無秩序な都市景観が形成されてきた。近年ではその反省から景観の価値が見直されてきており、なかでも観光など景観デザインに関わる課題が国内で注目されている。

本研究の対象地である神戸・北野界限は、観光地として知られており、多くの人々が訪れている。もともとは農村であったが、神戸港が開港し、外国人たちは海岸沿いに設けられた居留地に住居を移そうとしたが、造成が間に合わず居住地が不足していた。そこで神戸の山手にある田園地帯の北野村を外国人も居住できる雑居地として活用することとなった。

こうして形成された北野地区であるが、戦災や高度経済成長の影響で外国人たちの住宅は失われ、マンションやホテルが乱立するなど、既存のまちなみに不調和な地域環境が生じた。それに対して住民たちが市民団体をつくり、北野地区とその周辺に対してまちなみ保全活動を行うなど、地域の景観や外国人たちの住宅を守ろうとする動きが活発になった。

そんな中、1977年のNHK連続テレビ小説「風見鶏」の放送をきっかけに異人館ブームが起こり、北野界限は観光地化されていった。本研究では、住宅地でありながら観光地となっている神戸・北野界限の地域特性を加味しながら、地域景観の特性を把握する。

2. 研究の目的と方法

観光資源と景観資源とは非常に密接な関係にあり、とくに神戸・北野界限では異国情緒溢れるまちの雰囲気を味わうことが観光の大きな魅力の一つであるといえる。その主たる要因は視覚からの情報、つまり北野界限がもつ特有の景観である。観光スポットが都市の中に点在しており、その観光ルートや観光対象を観光客各々が自由に決定する都市周遊型の観光地である。その中で、人々がどこで立ち止まり、何を見るのか、つまり、観光客の行動を把握することは、景観デザインを行う上でも重要なことであるといえる。本研究では地域の特性を加味した景観デザインという観点から神戸・北野界限の分析・把握を試みる。近年ではスマートフォンやタブレット端末など、スマートデバイスの普及に伴いソーシャルメディアの利用者が増えている。

本研究では、ソーシャルメディアに着目し、位置情報ビッグデータとして投稿されたデータを活用している。写真コミュニティサイトから北野界限内で撮影された投稿写真データを収集する。取得した投稿データを分類し、GISを活用することで視点と対象の相互関係を分析する。さらに、地域特性を調査し、収集した投稿写真データと重ね合わせることで、この地域の景観的特徴の把握を試みる。

3. 対象範囲とデータ収集

本研究では、北野地区を中心に周辺の環境をもとに研究の対象範囲を北野界限とし、街路ネットワークに着目することで北野地区を中心に周辺環境を含めた対象範囲を独自に決定した(図1)。

決定した範囲内でソーシャルメディアに投稿されたデータの収集を行っている。本研究では、ソーシャルメディアの中でも、写真コミュニティサイトに着目している。写真画像に位置や時刻など時空間に係わる情報をもつデータがあり、どこで何を撮影しているのかを把握することができるためである。データの収集にはWebAPIを活用し、FlickrとPanoramioの2サイトから北野界限内で撮影された計3,496枚を取得している。

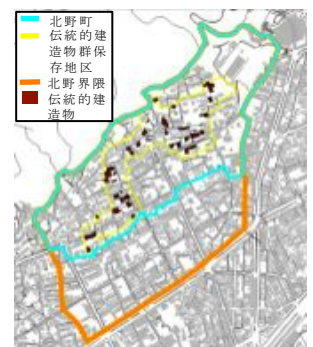


図1 対象範囲

キーワード 景観分析 ソーシャルメディア

連絡先 〒630-8501 奈良市登大路町30 奈良県庁 TEL 0742-22-1101

4. 地域特性と観光分析

ソーシャルメディアから取得した空間データから人気の観光スポットを把握した。北野界限は観光地でありながら本質的には住宅地であり、地域との関わりがより重要である。そのため現地調査を行い、敷地ごとの土地利用と建物構造を調査し、地域特性を把握した。その上に収集したデータを重ね合わせた(図2)。

結果として、西側にはトーアロードというにぎわいある坂道や公開されている異人館があるものの、撮影ポイントは少ない。北野界限は大型の建造物といえれば集合住宅になる。西側にはそういった大型の集合住宅地が多く並んでいるため、あまり写真を撮影されない傾向にあるのではないかと考えた。

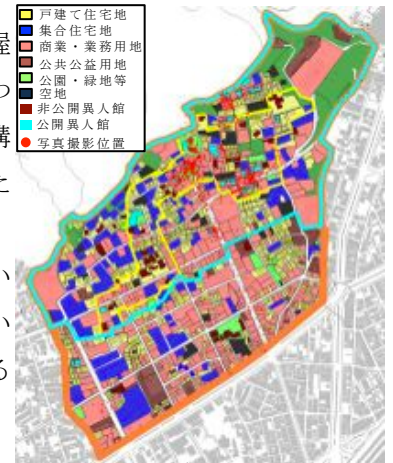


図2 観光分析

5. 地域の景観特性

何に魅力を感じているのかを把握するため、投稿された写真をもとに景観対象を類型化することとしている。類型化の結果、集合型では街路空間を撮影した写真に特徴がみられた。街路空間を構成する要素として大きな役割を果たすものは路面と建物、あるいはその建物の塀が挙げられる。そこで、建物構造を調査した(図3)。とくに街路空間を撮影した写真が多い地域を拡大表示している(図4)。撮影位置周辺に公開異人館などはなく、特別に取り上げるべき歴史ある建築もない街路である(図5)。北野界限の住宅地という特性がよく現れながらも魅力のある、地域を特徴づける景観と捉えることができるのではないかと考えた。

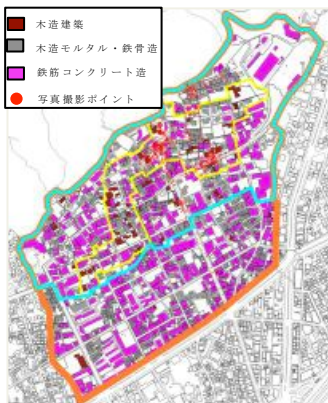


図3 建物構造の把握



図4 街路空間を撮影したポイント



図5 街路空間を撮影した写真の例

6. 写真を活用した見られ方分析

ソーシャルメディアから得た写真を用いて、対象を風見鶏の館に設定し、見られ方の分析を行っている。分析手法として、撮影された写真の撮影中心位置を特定している。公開されている資料から風見鶏の館の建築図面を作成した。そして中心位置を作成した図面にプロットを行い、等間隔にグリッド分割を行っている。その中でも撮影中心が多く集積しているグリッドに集まるグリッドで写真撮影位置に集積が見られた(図6)。これは視点と対象の関係、つまり「どこから」そして「どのように」撮影されているかという条件が同じであり最も多い見られ方を把握した。

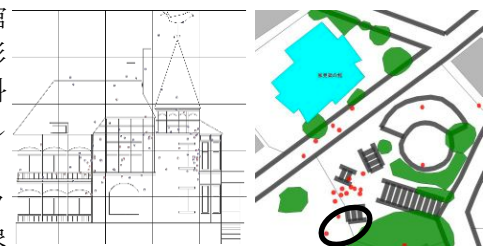


図6 見られ方分析

7. まとめと今後の課題

GISを活用し、空間データを用いることで地域の現状を把握し、観光者の行動や地域景観の分析を行った。今後は、現実空間に即した3次元空間での分析を行っていききたい。

参考文献

- 神戸市文化財課：異人館のある町並み北野・山本，イディ出版，2000